

# 広がれ消費者との架け橋

—女性パワーで消費者とともに—

石巻市東部漁業協同組合女性部

平塚 淳子

## 1. 地域の概要

石巻市は、宮城県中央部の東端に位置し、沖合には世界3大漁場の1つ三陸沖漁場が広がり、海岸線は三陸特有のリアス式海岸が続くなど、恵まれた自然環境の下で、古くから漁船漁業やノリ、カキ、ワカメなどの養殖業が盛んな地域である。市の中心部には、全国第3位（平成17年）の水揚げを誇る特定第3種石巻漁港を始め、これと隣接して石巻工業港もあり、県内屈指の都市機能を持った水産商工地帯として栄えている。

私たちの住む石巻市東部地区は、JR石巻駅から東へ車で40分ほどのところにあり、牡鹿半島の西側で仙台湾に面し、牧浜・竹浜・狐崎浜・鹿立・福貴浦の5つの浜から形成されている風光明媚なところである。

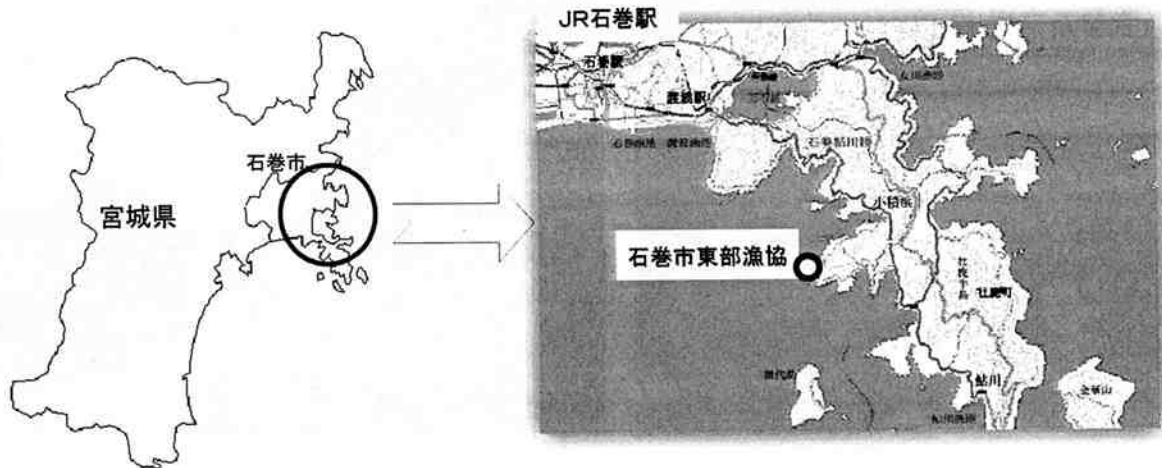


図1 位置図

## 2. 漁業の概要

石巻市東部漁業協同組合（以下組合）は、正組合員100名、准組合員17名、計117名の組合員で構成され、そのほとんどがカキ養殖を主体とした漁船漁業との複合形態で漁業を営んでいる。

平成17年度における組合の水揚げ実績は12億2500万円で、そのうちカキ養殖業が8億7800万円と全体の72%を占めており、組合が進める地域営漁計画に基づき、より安定的な生産に努めている。

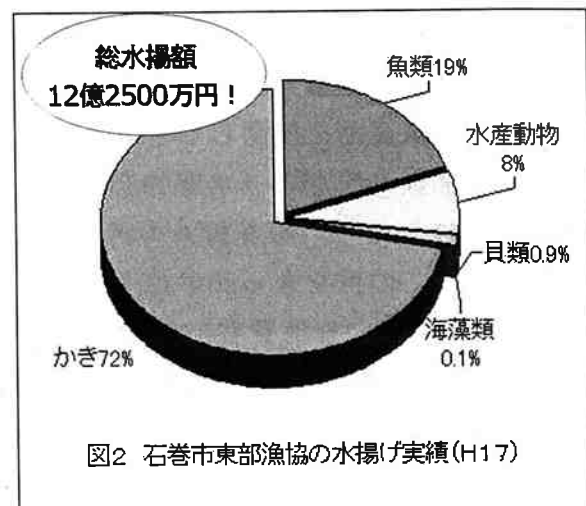


図2 石巻市東部漁協の水揚げ実績(H17)

### 3. 研究グループの組織と運営

私たち漁協女性部は、昭和 31 年に組合の下部組織として「石巻市東部漁業協同組合婦人部」の名で発足した。部員は現在 65 名で、運営は会費と組合からの助成金で賄っている。部員の年齢構成は30代と40代で全体の46%を占め、他の地域と比べると、若々しく働き盛りの女性部員が揃っている。

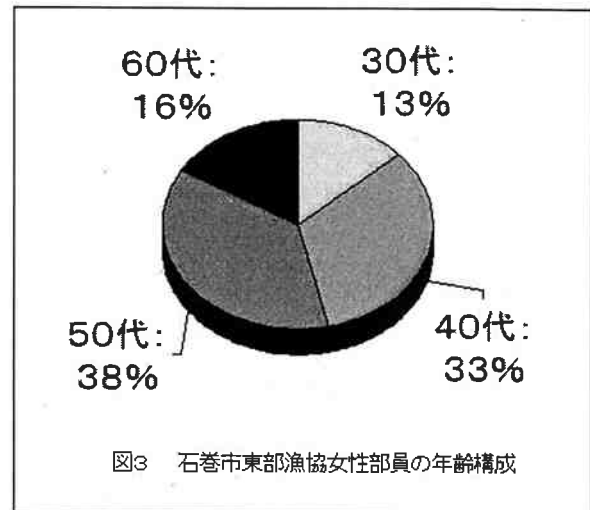


図3 石巻市東部漁協女性部員の年齢構成

これまで、明るく豊かな漁村づくりを目指して部員の地位向上と相互の親睦を図りながら、生活改善や魚食の普及啓発活動、海をきれいにする合成洗剤追放運動、青少年健全育成事業、漁船海難遺児育成資金の募金運動などを展開してきた。特に、昭和 62 年に活力ある漁村の形成を目的とした「地域営漁計画作成モデル地区」に指定されてからは、家計簿記帳を通じての生活改善や冠婚葬祭簡素化のための運動にも地域全体で取り組み、「冠婚葬祭お返しノー運動」の徹底が図られるなどの成果を上げている。



### 4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

組合では昭和 60 年から地域営漁計画の策定を進め、漁家経営の改善に取り組んできた。私たち女性部も、生活を支える立場として家計のやりくりを工夫し、ムリ・ムダ・ムラを省くための記帳運動を展開してきた。

しかし、部員の中から「水産物を生産するだけではなく、消費者の生の声を聞き女性部活動の参考にしたい。四季折々の浜の食、伝統、文化を直接消費者に伝えたい。」との声があがった。この声をきっかけに、精魂込めて生産したカキや、地域でとれる水産物を通して、生産者の思いを消費者に届ける「顔の見える漁業」をテーマとした活動が始まった。

### 5. 研究・実践活動状況及び成果

組合では、豊かな浜を将来につなぐため、毎年、「資源管理型漁業」、「地域営漁計画」、「個別経営改善」の 3 項目を重点に事業を推進している。私たち女性部もその一翼を担う

ため、「顔の見える漁業」をテーマに、どのような取り組みができるかを検討した。手始めに皆で年次計画を立て、県内の特色ある産地直売所の視察や関係者との意見交換等を3年間行った。そうして得られた成果を基に生産者の思いを伝えるにはどうすればよいのか検討を重ね、消費者と生産者が一体感を醸成でき心の交流が広がるような「産地直売」に取り組むことを決めた。

①地域イベントへの参加(石巻かきまつり、小女子〈コウナゴ〉まつり)

カキの出荷最盛期の11月に石巻市内の3つの漁協が合同で開催する「石巻かきまつり」では、生カキを始めカキの鉄板焼きやカキご飯の販売、カキ汁の無料提供、カキ剥き体験などを実施している。地域の消費者へ地元産のカキの美味しさを伝えるとともに、生産の場である海の環境を守ることの大切さや品質の良いカキを生産するための苦労なども伝え、交流を深めている。



また、組合が毎年5月に開催する「小女子まつり」では小女子や地元で水揚げされた魚介類はもちろんのこと、女性部で作った小女子のつくだ煮、かま揚げ等の加工品も販売している。このイベントでは地域の消費者と継続的にコミュニケーションを図ることを目指しており、今年も第5回を数え、石巻市内はもちろん、仙台などからの来場者もあり、その数も年々多くなっているなど手応えを感じている。

②「石巻しみん市場」への参画

イベントでの「産地直売」に取り組んでいる最中、平成17年4月に、地元石巻の水産物の消費拡大を目指し、生産者自らが



消費者に販売することをコンセプトとした「石巻しみん市場」がオープンした。これまで女性部が取り組んできた「顔の見える漁業」という趣旨にもマッチし大変タイムリーなオープンで、組合の理解のもとブースを確保し、これまでに培ったものを基に、いよいよ主体的に実践できることになった。

部員みんなで「どんどん売りましょう！」と盛り上がり、まずは出店者グループとしての名称を考えた。女性部なので花の名前を付けようということになり、われわれ部員の底抜けの明るさから“ひまわりの会”と命名した。

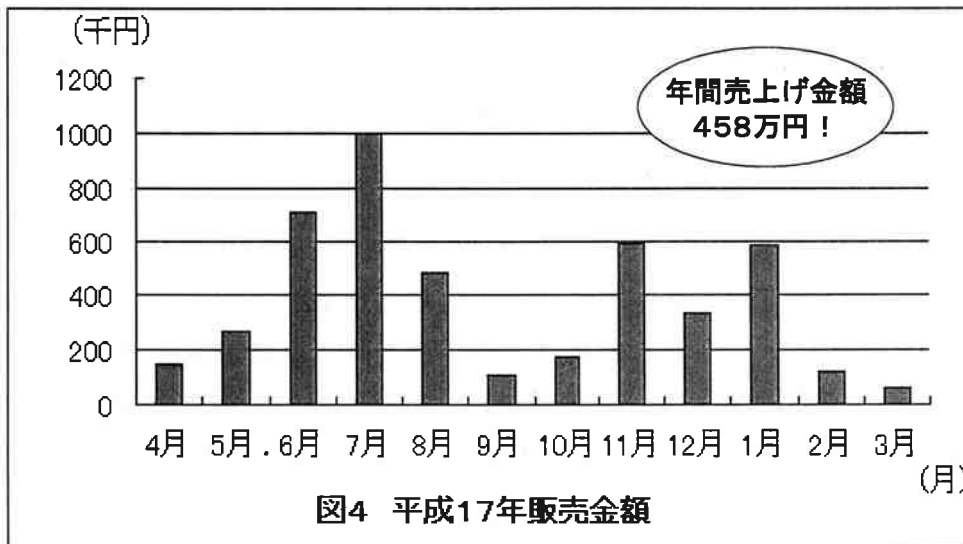
しかし、ここからが大変だった。出店するからには基本的には継続出荷が求められる。そのためには、毎日漁に出て漁獲される鮮魚の出荷に頼るところが大きく、漁をする家族の理解と協力無しには始まらないことが分かった。そこで、参加する部員を3つのグループに分け、グループごとに直売所に出す鮮魚や加工品の確保、商品の輸送と搬入、売り場での接客当番等の体制を皆で何度も話し合い、ようやくその体制が出来上がった。

そして「石巻しみん市場」のオープン当日、朝にとれたばかりの鮮魚や浜のかあちゃんの手作り加工品は消費者にも大好評であった。消費者と直接交流できる楽しさや喜びを感じるとともに、出品すれば売れるんだという自信のようなものが湧いてきたのもこの時だった。



主力商品は時期によっても異なるが春は「小女子釜揚げ」、夏は「活ウニ」、秋冬は「生食用カキ」が消費者から好評を博している。

オープンから3ヶ月はグループごとに出荷、販売を行っていたが、部員ごとに家族構成や漁業形態、自由になる時間など生活サイクルの違いもあることから、体制の見直しを行い、現在は、グループでの出荷も一部継続しているものの、個人出荷を主とした販売にシフトしている。オープンから1年間の出荷金額は458万円となり、部員皆による日々の努力の成果と感じている。



## 6. 波及効果

### (1) 「消費者の声を聞き、売り方も上手になった！」

初めの頃は、売り場に立っていても「いっらしやいませ」の声も出なかったが、少しずつ消費者と会話もできるようになり、朝早くから海で漁をする苦労話やカキの養殖方法などについて説明し、理解してもらえるようになった。今では特定の部員を指名の上で塩ウニや生食用カキを購入してもらうこともある。また、魚の料理法をお客さんにアドバイスしたり、逆にお客さんの意見を参考にパッケージを改良し、内容量もお客さんの求めやすい少量のパックを多くするなど、生産現場では体験できない消費の動向が実感でき、とても貴重な体験となった。

### (2) 「他地区の漁協女性部からも注目されている！」

県内の女性部の会合の場でも、直売の話が出るたびに当女性部の話題になり、取り組み状況に関する質問を必ず受ける。他地区の女性部でも興味を示すものの、具体的な取り組みまではなかなかまとまらないようで、私たちはなおさら、女性部のそして生産者の代表として、この取り組みをさらに充実させていかなければという責任も感じている。

### (3) 「生産現場の見学回数が増え、消費者との交流が生まれた」

「石巻しみん市場」への出品をみて、仙台市の消費者団体や子供会等から「是非、産地を見学したい」という要望が寄せられ、大型バスで私たちの浜に来てもらい、漁船やカキの共同処理施設を見学後、実際にカキ剥きなどの体験もしてもらっている。浜の人達も始めは都会から来るお客さんとの交流が苦手であったが、最近では見学者が来るのが内心楽しみでもあり、浜や家庭でも「もっと浜を見てもらい、多くの人に漁業を理解して欲しい」という話題が増えている。



(4) 「みんなが浜を気にしてくれている！」

昨年 10 月に大型低気圧で私たちの浜は大変な被害を受けた。その時、何人かの消費者から「大丈夫でしたか、大変でしたね。」と気遣いの電話を頂き、心のネットワークが着実に広がっていることを実感している。

7. 今後の課題や計画と問題点

私たちが目指している「顔の見える漁業」をさらに推進していくには、消費者に対して地域をもっとアピールしようとする部員ひとりひとりの「意識改革」が何よりも大切である。そのためにも、「地産地消」や「食育基本法」を追い風に、魚食普及も意識しながら、たくさんの消費者に理解され、受け入れられるような取り組みを女性部上げてこれからも取り組んでいきたいと考えている。

そして、これまでの活動を通じ、少しずつ築き上げてきた私たちと消費者とをつなぐ大切な“架け橋”をもっと強く大きなものとし、さらに多くの消費者が気軽に浜に来て楽しんで喜んでもらえるように明るく魅力的な浜を発信していきたいと思う。



平成 18 年 12 月 17 日  
石巻かほく

石巻漁協女性部が心意気  
力キ安く提供  
消費者感激!!

十月の低気圧で品薄になり、高値が続いているカキを安く提供しようと、石巻市の石巻東部漁協女性部ひまわり会(平塚淳子会長)が十六日、むきたてのカキの特別販売を同市魚町の石巻しみん市場で始めた。

一斗入り二千二百五十円(消費税込み)、五百円入り千五百円(同)で、それぞれ一日三十個の限定。市価より二割程度安い。五百円入りを二個買

った主婦は「一つは知人へのプレゼント。浜から直送と聞いたので、食べるのが楽しみ」と話していた。

十七日まで。平塚会長らは二日目、午前九時から売り場で、むきたての新鮮なカキを「良すぎる」としている。



新鮮なカキを買い求める主婦 // 石巻しみん市場